

献体遺体使用の臨床医学研究

**課題名：肩関節脱臼時に生じる骨欠損および手術手技の安定化機序の解明**

研究責任者：東北大学 整形外科学分野 教授 相澤 俊峰

1. 研究目的

肩関節脱臼は人体の中で最も脱臼しやすい関節です。脱臼した際に骨の欠損が生じることが知られています。骨の欠損が大きい場合は内視鏡手術の対象となりません。どの程度の大きさの骨欠損が存在すると治療が必要なのかをこの研究では明らかにします。また、現在行われている手術によってなぜ安定化が得られるのかを明らかにします。

2. 研究内容

肩関節を特製の装置に固定して徒手的に脱臼され脱臼を模擬します。脱臼の様子はレントゲン透視で観察します。また関節鏡で関節内の観察も行います。骨欠損ができた場合はどの程度の大きさのものができたか確認します。不安定な肩ができた場合、現在行われている手術（鏡視下バンカート修復術、Latarjet 法）を行い、安定性が得られているか確認します。